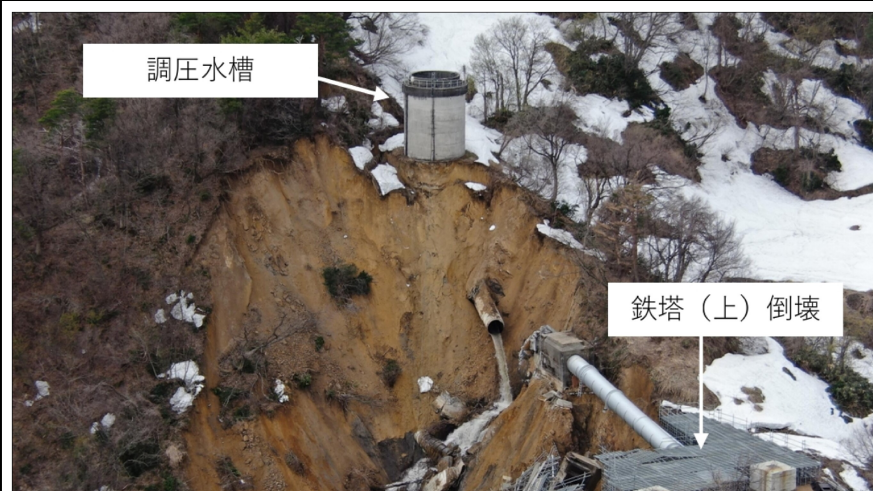
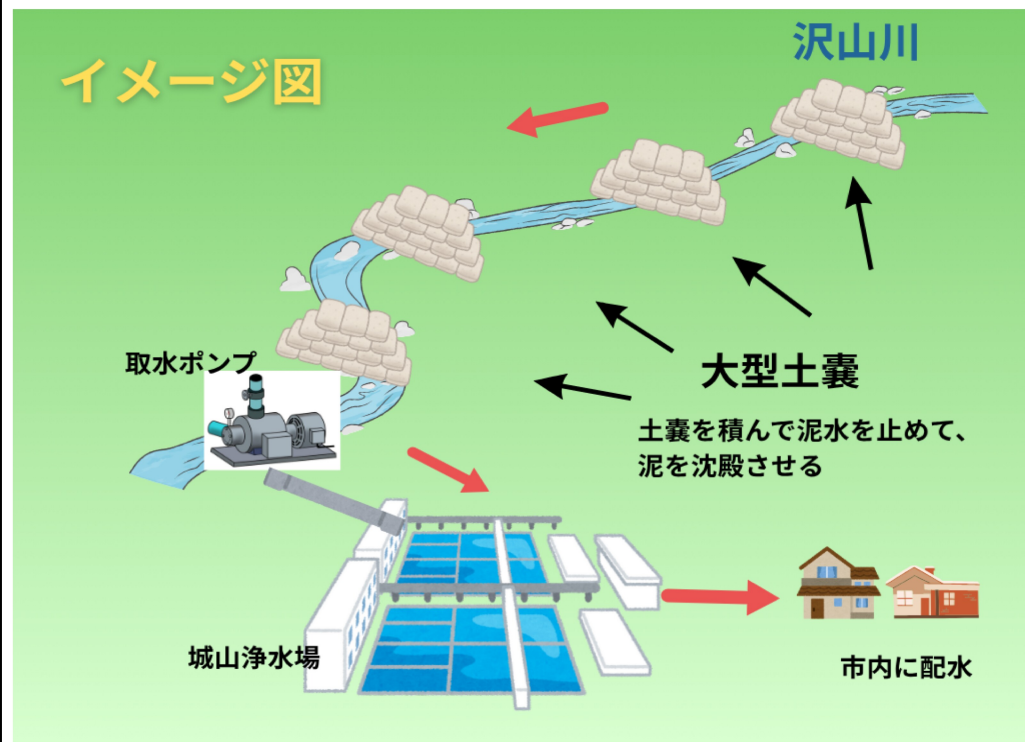




上の写真は高田発電所の水管の破断した状況（新潟県企業局のホームページから転載）、右下の写真は、7月20日の儀明川、左下は8月2日の儀明川。ドロがなくなりました。



行政は何やってんだ？

原水確保・断水回避へ ギリギリの取組

上越市の水不足が深刻です。市は、住民に節水を求めています。住民からは「行政は何やってんだ？」という不満が渦巻いています。そこで、私が調べた市の最近の取組を報告し、市の問題点を指摘します。

ドロを取り除け！

本年4月6日の県営高田発電所の事故で水管が破断し、後谷ダムから城山浄水場への給水が途絶しました。

正善寺ダムからの配水量を増やすなどして対応しましたが、7月10日、県は、市の要請により、破断した水管（上の写真）から後谷ダムの水を放出しました。その水を近くの沢に落とし、沢山川に流して城山浄水場で処理することとしたのです。

しかし、流量（1日約1万 m^3 ）が多すぎて、水が沢の土を砕き

その結果ドロ水となり城山浄水場では処理できませんでした（下流の儀明川ではしばらく濁り水が流れていました）。

そこで、流量を減らし、川に土嚢を積んでドロ水をとめドロを沈殿させて水を浄水場に送ることにしました（左のイメージ図・裏面の図①参照）また、水の迂回ルートとなる仮設水路の補強工事もされました。

その結果、城山浄水場の配水量は、7月20日時点で447 m^3 の配水量しかなかったのが、8月1日には、6335 m^3 までに回復してきました（裏面の表参照）。

本日（2日）、儀明川を見たところ、ドロ水もなくなり、小魚が泳ぐ姿も目視できました。正善寺ダムが枯渇しても、城山浄水場から一定量の水が配水されるのですから、ヤレヤレというところでしょうか（裏面へ）。

馬場ひでゆきの活動日誌

No.70

しかし、雨は天まかせ。晴天続きで川の水量も減ってきて予測はつかないでは。だからこそ、市は住民を信じて情報をこまめに流してほしいです。築きあげた信頼は、すぐに枯渇しないと思います。